

特集

広報やまゆりが200号！ 皆さんの協力で歩み続けて16年

平成3年8月に創刊した「広報やまゆり」が
今月で200号を迎えました。

時代とともに形を変え、
住民の皆さんの協力で作られてきた広報の歩みを、
町の歴史と一緒に振り返りながら、
あらためて広報広聴の役割について紹介します。



「御代田町時報」創刊号



「広報やまゆり」創刊号

当初は「御代田町時報」

御代田町の広報は、昭和31年9月の3村合併を記念して翌月の10月に創刊された「御代田町時報」がはじまりです。この頃は教育委員会の時報編集委員の手により発行されていました。大きさは新聞紙と同じで、4Pでスタートしました。発行にあたって当時の町教育委員長の中島鉦藏さんは、「この時報は町の広報としての任務を持つと共に、町民の目となり、また口となるようにしたいつもりです(抜粋、一部要約)」と述べています。その後257号で「時報みよた」と名前を変え417号まで発行されました。

「広報やまゆり」 平成3年8月創刊

これまでの時報に代わり、A4版の雑誌型で表紙と裏表紙がカラーとなりました。この号より企画課が編集を担当することになり平成8年5月から、毎月10日におしらせ版の発行が始まりました。現在は総務課で編集を行っています。現在の表紙になったのは平成18年5月号からで、平成12年5月号と平成16年5月号にも変更しています。裏表紙は各区の紹介を創刊号から18号まで行っていました。その後みよたの仲間たちということで、町内で活躍するサークル・会・団体等の紹介を行い、次にあさま山麓お宝拝見!!と題して、町の文化財の紹介を行いました。現在の未来への遺産は平成14年5月号から始まり、浅間山麓の未来に残したい自然、文化、人物などを紹介しています。

広報と広聴の役割

広報は英語「Public Relations」の日本語訳であり、頭文字をとって「PR」とも呼ばれています。住民の皆さんとのよりよい関係を築いていくことが、広報の目的と言えます。行政の広報活動は、大きく分けて「広報」と「広聴」の役割を担っています。

まちの広報・広聴活動とは？

町の施策や事業などの行政情報をわかりやすく伝え、住民の皆さんに理解を得ること。意見・要望など、皆さんの声を広く聴き、町づくりに生かすこと。広報やまゆりは、住民の皆さんの最も身近な情報紙として、町の動きを見つめ、皆さんの声を紹介してきました。

「御代田町時報」から「広報やまゆり」へと変わり200号を迎えるまでの間、町の様子は変わりましたが、広報紙の役割は変わらないと考えています。

これからの
広報のめざすもの

御代田町は「自律・協働のまち」をめざして町づくりを進めています。広報は、この町づくりを進めていくうえで、情報を共有するための基本であると考えます。住民の皆さんの多くの声を聞き、これを町政に反映させる行政と住民の皆さんとのパイプ役としての役割が重要になります。

これからも「広報」と「広聴」の2つの機能を互いに連携させながら親しみやすく、住民の皆さんとの架け橋となる広報づくりを行います。これからも住民の皆さんのご協力をお願いします。過去の広報紙はフレンドリー図書館で閲覧ができます。

問い合わせ先

総務課広報情報係

(32)3111(内線71)

私と同じ年!?

市村 夏乃

「広報やまゆり」200号おめでとうございます
「みよた広報やまゆり」が誕生したのが、私が生まれた平成3年8月と聞いて「へー」と思いました。いままで手に取って見たことがなかったので、何を書いて良いのかわかりません。いつだったか、友達の写真が載っているのを母から見せられたことがあります。正直に言うと、自分から見たことはなく、写っている写真や名前を見せられたというのが本音です。
私の家には、耳が遠くなってきた87歳のおじいちゃんがいますが、視力は良いので、朝起きるとすぐに新聞を手にとり、時間をかけて全部読みます。おじいちゃんは、見たり読んだりするのが大好きで、毎月、配られる「やまゆり」も端からよく読んでいるとおばあちゃんが話してくれました。
町の人の写真が載っていたり、いろいろな情報が載っていたりするので、これからは、ちょっと関心を持って見ようと思います。

中学校の様子を伝える

(平成17年度御代田中学校生徒会、新聞委員長) 依田 智美

「広報やまゆり」200号おめでとうございます。
「広報やまゆり」には、平成17年10月から平成18年3月まで、「学校だより」ということで御代田中学校の様子などを載せていただいた時に、生徒会新聞委員長として記事づくりに参加しました。200号記念に感想をと、お願いがあり、その時の事を思い出しました。「絆」をテーマにした雪窓祭を取材し、アルミ缶アート製作やエコせっけん作りなどについての紹介を載せていただいたり、「受験」に向かって頑張っている仲間のお声を載せていただいたりと、町民の皆さんに中学校の様子をお伝えする場をつくることができました。当時担当してくださった役場職員の方には、大変お世話になり、また貴重な体験をさせていただき、本当に感謝しています。
これからも、御代田町に住む私たちの身近な情報誌として、いろいろな話題を載せていただきたいと思います。

親しみやすい広報

上原 良子

御代田町の時報は町制が施行した年に創刊されたといいました。私の生まれた年が御代田町の誕生した昭和31年ということで、一言をお願いされました。私の子ども時代を思い出しますと小学校が現在の2校ではなく、合併時の3村からなる、伍賀小学校・小沼小学校・御代田小学校であったことを懐かしく思い出します。
さて、現在の「広報やまゆり」は行政からのお知らせに加えて、随所に町民の姿が登場して親しみやすい紙面であると思います。
毎回楽しみに読ませていただいているページは、kids generationです。可愛い10ヶ月の子どもさんの笑顔が毎月紙面を飾り、親御さんのメッセージも載せられています。この町で生まれた赤ちゃんが紙面に登場する素敵な企画だと思います。また、Man Watchingは若い世代の皆さんが御代田町をどの様に捉えているか知ることができずし、Let's try English!のページでは、今年の中学校のAETはどんな先生かな?と目を通して英語の音読にチャレンジしてみたりしています。
大人だけのご家庭でも、町の子もたちや若者の姿に触れることができると共に、これらの記事は紙面全体を希望に満ちた明るいものにしていただいているのではないのでしょうか。
裏表紙の浅間山麓未来への遺産も楽しみな記事のひとつです。以前シリーズで掲載されていた町で発掘された土器などについての解説は大変分かりやすく、心は古代にワーブして大変興味深く読ませていただいていた。行政からのお知らせに加えて、町の過去と未来が感じ取れる「広報やまゆり」。これからも、分かりやすく親しみやすい紙面づくりに期待しています。

200号を記念して住民の方々からメッセージをいただきました。



平成18年5月号から



平成16年5月号から



平成12年5月号から



平成3年8月号(創刊号)

表紙の移り変り